

「汐川干潟保全基本指針（汐川干潟保全マスタープラン）」の改定について

1. 汐川干潟保全基本指針（汐川干潟保全マスタープラン）とは

豊橋市南西部から田原市東部の汐川河口にかけて広がる「汐川干潟」の自然環境の保全に資するため、豊橋市及び田原市並びに関係団体が相互に連携・協力するための基本的な計画として、平成 15 年 3 月に共同で策定したものです。

2. 改定する理由

計画策定から 20 年程度が経過しており、その間に「生物多様性国家戦略 2023-2030」が策定され、2030 年に向けた目標として「ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現」が掲げられるなど、新たな事実や考え方、社会動向の変化等を盛り込む必要が生じたため、改定を行うものです。

3. 改定案の構成

「汐川干潟保全基本指針～汐川干潟保全マスタープラン～（以下、「本計画」という）は、汐川干潟における自然環境及び生物多様性の保全並びに持続可能な利用に関する基本的な計画であり、豊橋市及び田原市並びに関係団体等が相互に連携・協力するための指針として、策定するものです。

【本計画の構成】

目次		記載内容
1	策定にあたって	・本計画策定の背景、趣旨、位置づけ及び対象期間
2	汐川干潟の概況	・汐川干潟周辺の社会特性及び臨海域の特性
3	汐川干潟をとりまく社会的潮流	・汐川干潟をとりまく社会的潮流について整理
4	水環境	・底質調査及び遊水地調査の結果及び過去との比較 ・汐川干潟に流入する河川や周辺海域の水質調査結果
5	自然環境	・汐川干潟に生息（飛来）する動植物調査の結果及び過去との比較
6	市民意識調査	・市民意識調査（豊橋市・田原市）の結果及び過去との比較
7	汐川干潟の保全に向けての 基本認識	・汐川干潟における課題の整理、目標設定に向けての課題、社会潮流等の整理、汐川干潟の目指すべき姿
8	汐川干潟の保全に向けて	・基本方針、保全目標、定量目標の設定 ・基本施策及びこれに基づく具体的事業の設定 (別紙のとおり)
9	本計画の推進のために	・計画の進捗方法等

4. 計画改定スケジュール

時期	内容
10 月 中旬	豊橋市・田原市関係部局照会、庁外関係者（愛知県）照会
10 月 下旬	令和 5 年度 第 2 回環境審議会
1 月 中旬	第 2 回 生態系ネットワークづくり懇話会（専門家会議）
3 月 中旬	令和 5 年度 汐川干潟保全連絡会総会（改定案の決定）
4 月 月上旬	報道発表、ホームページにて公表・関係者周知

現行

《基本方針と保全目標》

基本方針

人と自然が共生する汐川干潟

保全目標①

水がきれい、ごみがない健全な干潟

保全目標②

いろいろな生き物が生育生息できる干潟

保全目標③

人と地域が安心して関わりあえる干潟

【取組方向】

- ① 干潟の自然に関する情報を集め提供する
- ② 生き物と干潟の仕組みに関する教育を進める
- ③ 水質改善や環境美化に役立つ自発的な活動を促す
- ④ 保全活動と地域防災を支える環境の整備に努める
- ⑤ 豊橋市と田原市とが干潟の保全のために連携する

《保全に向けた基本施策》

I. 情報提供施策（干潟の保全に役立つ情報の提供）

＜施策例＞ 汐川干潟保全ホームページ

II. 教育推進施策（市民や子ども達への教育）

＜施策例＞ 自然観察会、干潟環境講座

III. 活動促進施策（自主的な活動の促進）

＜施策例＞ 汐川干潟クリーンアップ大作戦

IV. 環境整備施策（環境保全施策等の実施）

＜施策例＞ 環境保全型農業の推進、河川浄化対策の推進

V. 市町連携施策（豊橋市・田原町の連携）

＜施策例＞ 汐川干潟保全連絡会

新たに重視すべき社会動向

- ・生物多様性国家戦略 2023-2030
⇒ 自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め、反転させるための緊急の行動をとる。
- ・あいち生物多様性戦略 2030
⇒ 「里海」として、人手を加えることにより生物生産性と生物多様性の維持を行うことが必要。
- ・第6次豊橋市総合計画
⇒ 自然環境保全啓発により、子供たちに自然の大切さを学んでもらうことが必要。
- ・第2次田原市総合計画
⇒ 地域全体の活動を活性化することにより優れた自然環境の保全につなげていく必要がある。
- ・第3次豊橋市環境基本計画
⇒ 自然に愛着や関心がある人の割合を増加させるとともに、生物多様性の保全を図ることが必要。
- ・田原市環境保全計画
⇒ 干潟の清掃活動を推進し、自然環境への理解を深めることで、汐川干潟の再生を目指す。

改定に向けての現状及び課題

- ① 汐川干潟の底質・干潟に流入する河川の水質
 - ・ 過去の調査と比較して改善傾向にあるが、紙田川で汚濁濃度が比較的高い傾向にある。
 - ・ 遊水地は干潟内と比べて汚濁が高く、上流のため池や畜産農業からの排水が要因のひとつと考えられる。
 - ・ 汐川干潟付近の海域は、周辺海域と比較して、特に全窒素・全リンが高い傾向にある。
- ② 動植物の生息状況
 - ・ 前計画の記録と比較して、塩生湿地植物（13種）、底生動物、鳥類に加え、汐川干潟に生息する絶滅危惧種の種数に大きな減少はない。
 - ・ 平成23年度にヒガタアシの根絶を達成するなど、生態系の損失は軽微となっている。
- ③ 市民意識の変化
 - ・ 過去の調査と比較して、汐川干潟の認知度^{※1}は、干潟周辺に居住する住民^{※2}に関しては現状維持又は上昇しているものの、豊橋市・田原市全体の認知度は減少傾向となっている。
- ④ その他
 - ・ 汐川干潟をはじめとした沿岸部や河口地域は、多くの漂着ごみやプラスチックごみが滞留しやすい状況である。
 - ・ 汐川干潟及びその周辺では、ミシシippアカミミガメをはじめとした外来生物が確認されている。

※1 汐川干潟に行ったことがある人の割合、汐川干潟という名前を知っている人の割合
※2 老津小学校区（豊橋市）、杉山小学校区（豊橋市）、田原東部小学校区（田原市）及び童浦小学校区（田原市）

改定案

目指すべき姿 現在の健全で豊かな自然と生態系を次世代に残し、引き継ぐ

基本方針 人と自然、社会が共生する汐川干潟

保全目標①

水がきれい、ごみがない健全な干潟

保全目標②

いろいろな生き物が生育生息できる干潟

保全目標③

人と地域、社会がともに支える干潟

【定量目標（基準年度：令和4年度 目標年度：令和14年度（令和9年度も同指標で進捗確認））】

水質及び底質の維持	基準年度よりも、汐川干潟及びその周辺において、全ての調査地点における水質・底質に10%以上の悪化が見られないこと。
鳥類の生息確認	汐川干潟で、ハマシギ・ダイセンの生息が確認されていること。
汐川干潟のことを知っている人の割合（認知度）の維持	基準年度（2022年度）から、「汐川干潟に行ったことがある」又は「名前は知っている」と回答した人の割合（認知度）が維持されていること。

基本施策及びこれに基づく具体的事業

I. 保全活動を支える環境の整備【環境整備施策】

赤太字：新規施策

ア. 水環境調査の実施（目標①）

水質の常時監視、底質及び遊水地調査の実施

イ. 河川浄化対策の推進（目標①）

下水道施設の適切な維持管理、特定事業場の監視・指導の実施

ウ. 自然環境調査の実施（目標②）

自然環境調査の実施、外来生物の防除

エ. 環境保全型農業の普及・促進（目標③）

有機農業の促進、化学肥料や化学合成農業の使用の低減・啓発

II. 生き物と干潟の仕組みに関する教育【教育推進施策】

ア. 自然観察会の開催（目標②）

自然観察会の開催

イ. 干潟に関する教育の実施（目標②）

小学生、中学生及び高校生向けの訪問授業・社会人向け出前講座の実施

III. 水質改善や環境美化に役立つ自発的な活動促進【活動促進施策】

ア. 水質改善や環境美化に役立つ自発的な活動の実施（目標①）

干潟での清掃活動の実施、合併処理浄化槽への転換促進

イ. 汐川干潟の保全に資する担い手の育成（目標③）

小中学校など教育機関との連携、若い世代の積極的な保全活動への参加促進

ウ. 市民ボランティア等の自発的な取組の促進及び連携（目標③）

市民ボランティア、事業者、専門家との連携

IV. 干潟の保全のための関係機関の連携【連携施策】

ア. 豊橋市・田原市の連携強化（目標③）

保全連絡会の定期的な開催、マスタープランの進捗管理、干潟に影響する情報共有

イ. 海岸管理者等との連携強化（目標③）

海岸管理者との連携、行政機関との連携強化

ウ. 国、愛知県との連携強化（目標③）

自然公園の指定などに向けた国・愛知県の施策への協力（30by30への貢献）

V. 干潟の自然に関する情報の収集・提供【情報提供施策】

ア. 適正な水利用の啓発（目標①）

生活排水対策、浄化槽の適正使用に関する情報発信、モニタリング調査結果の公表

イ. 干潟及び干潟に生息する動植物に関する情報発信（目標②）

SNS、ホームページ等を活用した情報発信